



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

# 佐土原ロータリークラブ週報

1998～99年度 会長賞



国際ロータリークラブ会長 ジェームスL.レイシー

## ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は、有益な事業の基盤として、奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成することにある：

- 第1 奉仕の機会として知り合いを広めること；
- 第2 事業および専門職務の道徳的水準を高めること；あらゆる有用な業務は尊敬されるべきであるという認識を深めること；そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するためにその業務を品位あらしめること；
- 第3 ロータリアンすべてがその個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；
- 第4 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進すること。

第547回 平成11年 3月26日(金)

### 〔本日のプログラム〕

<p>1. 点 鐘</p> <p>2. ロータリーソング 「我等の生業」</p> <p>3. 食 事</p> <p>4. 会 長 の 時 間</p> <p>5. 幹 事 報 告</p> <p>6. 委 員 会 報 告</p> <p>7. 点 鐘</p>	<p>次 回 予 告</p> <p>★ 4月 2日(金) 観桜会</p> <p>★ 4月 9日(金) 夜間例会 クラブ協議会 4月セレモニー</p>
--	---

### 佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週金曜日(12:30~13:30)	会 長	加藤 仙之
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	福井 輝文
事務局	宮崎郡佐土原町大字下郷阿3887-17	幹 事	吉田康一郎
	☎880-0212	会 計	恒吉 正志
	☎及びFAX 0985-73-7170	会報委員長	垂水 敏雄

## 第 5 4 6 回例会記録 (1999. 3. 19)

### ☆会長の時間

会長 加藤 仙之君

きのうは、彼岸の入り久しぶりの、墓掃除にいきました、墓も今日からは人出でいっぱい駐車するところがないのではないかと思いつながら行きましたが、初日のせいかなはまだまばらでありましたピークは今週の土、日曜日になるのではないかとおもいます天気が心配です。

宮日新聞の「くろしお」覧にこんな記事がありました。このごろは葬儀の生前予約もあるらしい。茶飲み話をしていたら、八一歳の男性が「家内と二人分を予約し、料金も払った」という。先に死んだ方が、上のランクの葬式にする約束とか…最近、お寺の納骨堂も購入した。「墓地を買っても、遠くの子供が参ってくれるかどうか。草ぼうぼうでは周りの墓に迷惑を掛ける」。当節は「夫婦が同じ墓に入る必要はない」と考える人も、若い世代を中心に増えているようだ。

人々は今や「死後の自由」を求めている。「寒戻り葬儀無用と書き遺す」世知辛い現世にいとまをこい、煩惱のない彼岸へ。道も一様ではなくなった。時代とともに様変わりしている。

「黒潮へ散骨でよし海紅豆」。と言う句も書いてあった。

私が、現役時代墓作りに苦勞をしたことがありました、墓地は墓地法で色々な規制があり民間での墓地造成はなか

なか困難であり集落にあります墓地も町が、管理者になっていますし、但し寺院の私有墓地は異なります。

町は、昭和三〇～四〇年にかけて宅地造成をやり人口増加政策をとり三万強を擁する町になりましたが、墓地を必要とする住民の方々も多くなりました。そこで墓地造成の仕事にたずさわることになり、造成地をさがしまわりましたがなかなか適地がなく、墓地では苦勞したおもいでがあります。

先週の例会でお約束をいたしました役員、理事、委員会の構成についてであります。お手元に、1999～2000年度 佐土原RC役員、理事、委員会、名簿を配布いたしましたこれでご承認を戴きたいと思ひます。

### ☆幹事報告

幹事 吉田 康一郎 君

#### 1. 例会変更及び休会通知

- ① 4月7日(水)「観桜会」の為、  
4月3日(土) 18:30～  
場所 レストラン 和光 に変更

都城西RC

- ② 4月2日(金)「早朝例会」の為、  
時間 7:00～  
会場 高木原緑道公園 に変更

都城 RC

- ③ 4月6日(火)「観桜会」の為、  
時間 6:30～に変更

都城北RC

#### 2. 1999～2000年度地区協議会 について

下記の通り地区協議会が開催されます。

記

期日 平成11年5月9日(日)

9:00 登録開始

10:00 開会

会場 鹿屋市文化会館

鹿屋中央公民館

(☎0994-44-5115) (☎0994-44-0321)

指名出席者

次期クラブ会長及び幹事、会計

次期委員長

登録料 10,000円

詳しい資料は次週の例会にて配付します。

## ☆出席報告

委員長 宮原 建樹 君

会 員 数	26名
例会出席者	20名
出席率	77%
マークアップ者数	2名
修正出席率	85%
欠 席 者 名	神崎詩、丸林(卓)、山

## ☆親睦委員会

委員長 郡 司 武 俊 君

### 1. 観桜会について

場所は、例年の通り宝塔山という事にしておりましたが、雨天の場合を考えて対応できる場所をもう一回、次週の例会で打合せしたいと思います。

### 2. 佐土原ライオンズクラブとのゴルフコンペ(4月11日)へあと2名ほど参加者を追加して下さいませんか。

## ☆会員卓話

江 崎 富 治 君

入会のあいさつの際に自己紹介いたしましたとおり、現在、私は西都原古代生活体験館の指導員をいたしております。

利用者の大半は子どもたちであります。この子どもたちや通勤途上で見かける高校生のことで気になることがいろいろあります。その中から、本日は2点にしぼってお話してみたいと思います

朝8時半が始業ですので、7時50分に自宅を出ます。丁度、高校生の通学時間帯でもあります。西都原への坂の中ほどに妻高校があります。高校の裏門の脇を抜けて西都原へと上がっていくのですが、気になることの第一は高校生の通学風景にあります。毎朝、必ず車から降り立つ高校生の姿を見受けます。ご丁寧にもそこには、「車での送迎はここまで」との看板を立ててあります。特に、雨の日には多くの子どもたちが親に車で送らせての通学です。中には軽トラに自転車を積んで乗り付ける親子も見受けます。

数年前、近所に毎朝、宮崎北高へ父親運転の車で通学する女の子がいました。時には私も便乗することがありましたが、雨の日の北高の裏門前はさながら通学車のラッシュでした。県教育委員会の職員として何とも苦々しい光景でした。それが今では、質実剛健であった妻高校でも同じ現象が起きているのです。たくましげな男の子が恥かしげもなく母親に車で送ってもらっているのです。

「送ってくれんなら学校に行かん」と言うから送るのか、「雨に濡れるのは可哀想」だからなのか、「雨の中の自転車

通学は危険」だからなのか。「寝坊して遅刻するから」なのか。一度、親子双方の考え方を聞いてみたいものです。

本県の教育基本方針には「たくましいからだ 豊かな心 すぐれた知性」をそなえ心身ともに調和の取れた人間の育成をめざす。とうたわれています。笛吹けど踊らず、形骸化したうたい文句だけが虚しく踊ります。

さて、第二は小中学生であります。体験館には多くの小中学生が団体で、あるいは親子連れでやってきます。子どもたちは「作りたい、早く作ろう」と大張り切りです。勾玉作りが一番の人気メニューですが、勾玉は、ナイフを使えないとうまく仕上げることはできません。ところが、子どもたちはもちろん、引率の教師も、親たちも殆どがまともにナイフが使えません。仕方なくヤスリでゴシゴシと削らせるのですが子どもの力で時間内に仕上げるのは無理。結局指導員が大汗かいて仕上げてやることになります。団体の場合、最後には指導員の前に順番待ちの行列ができる始末です。

子どもたちは、好奇心いっぱいでも自分でやりたがります。が、残念乍ら、日頃、創造的な遊びを何一つやらせてもらっていないものですから気持ちだけが空回りして、「僕、出来ない」と投げ出してしまいます。

「危険だから」という理由で家庭や学校が子どもたちから「肥後の守」を取り上げて40年くらいたったのではないかと思います。結果は、ナイフも使えない大人が増え、手作りでは何もできそうにない若者たちで日本中が満たされつつあります。貿易でしか生きるすべのない日本人が、技術、技能を失ったらどうなる

のでしょうか。今は、人件費の安い東南アジア諸国で物作りをし、3Kとか言って技能職を敬遠する風潮が蔓延しつつあります。しかし、時代は超スピードで変化します。このままでは、さあ、また再び国内で物作りをしようと思っても働き手不在になりかねません。

昭和30、40年代には、技能オリンピックで日本代表の若者が金メダルを総なめにして世界中に技術日本の名を高めましたのに、近年は、特訓に特訓を重ねてもようやく金メダル1個か2個という状況のようです。金メダルの大半は韓

と台湾で獲得しているそうであります。ナイフで竹や木を切ったり削ったりして木刀や杉の実鉄砲を作って遊ぶ楽しさを今の子どもたちにも味わわせてやり、指先を司る脳細胞を鍛え、技術力日本の伝統を引き継がせる工夫をする必要があります。とともに、技能職にもっと敬意を持つ社会風潮を醸成し、待遇もデスクワークより上にすべきであると思います。

体験館では、のこぎり1本で1オクターブの竹笛を作るコースがありますが、子どもたちも、これは結構楽しんで作ります。女の子用には縄文時代の布を編むコースも用意されています。

これ以外に、前にも紹介いたしました土器作り、古代の火起こし、火起こし道具作り、鏝や石槍などの石器作り、ドングリクッキー作り、古代(赤米)雑炊作りなどを楽しむことができます。費用はだいたい1人300円程度です。

これからも、老若男女を問わず自らの手で物を作り上げる楽しさを味わってもらえるよう、新しいメニューの開発に努めてまいりたいと考えております。